

【(4) 授業の導入】

①－5「学習のねらいを理解できるような教材の提示や活動をしている」

《つまづきの背景》

C 記憶力の弱さ、H 刺激の選択の困難さ、K イメージすることの困難さ、Q 状況理解の困難さ

《解説》

導入で学習のねらいを確実に理解させることは、授業を展開する上で非常に重要です。短冊黒板等を使ってねらいを掲示することで、子どもはいつでもねらいを確認することができます。また、それを教師が読むことは、ねらいをしっかりと意識付けることにつながります。挿絵や写真イラストなどの視覚的な情報を用いたり、具体物を操作させたり、調べ学習を取り入れたりすることにより、子どもは確実にねらいを理解したり課題意識を持ったりすることができます。

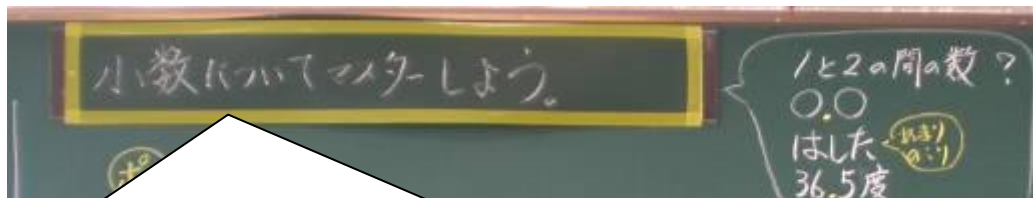
ねらいを掲示することは、学級の中にいる、聞いて覚えることが苦手な子どもへの支援になり、教師がねらいを読み上げることは、見て覚えることが苦手な子どもへの支援につながります。また、挿絵等の視覚的な情報を用いることは、イメージすることや状況を理解することの困難な子どもにも有効です。

事前にねらいを書いた短冊黒板を準備しておくこと、すぐにねらいが提示でき、子どもが注目しやすくなります。

【工夫点】

- ・学習のねらいを短冊黒板に掲示し、一緒に読む。(小中高 工夫例 27)
- ・教科書に出ている挿絵を拡大表示する。(小中高)
- ・教科書のページ等を黒板に書き、学習しているところを明示する。(小中高 工夫例 28)
- ・具体物を操作して見せたり、操作させたりして、単元で何を勉強していくかの見通しを持たせる。(小中)
- ・調べ学習を取り入れ、課題を見付ける。(小中高)
- ・子どもに評価の基準を示し、何を学習するか把握した上で取り組ませる。(中高 工夫例 29)

◆工夫例 27 「学習のねらいを短冊黒板に掲示し、一緒に読む」



《算数「小数についてマスターしよう」(小学校3年生)》

短冊黒板に学習のねらいを書いておき、授業の最初に提示します。短冊黒板をあらかじめテープで囲んでおくと、子どもが意識をしやすくなります。ねらいを読むことでより多くの子どもたちが意識できるようになります。

◆工夫例 28 「教科書のページ等を黒板に書き、学習しているところを明示する」

《数学(中学校2年生)》

教科書のページを黒板に書くことで、聞いて覚えることに苦手さのある子どもが、学習しているところを見付けやすくなり、結果として、ねらいを早く理解することにもつながります。

